

## 1.4 良好な景観の形成に関する研究

---

---

6) 質の高い道路空間の再編・利用に係る計画手法に関する研究

【道路調査費】 ..... 21



# 質の高い道路空間の再編・利用に係る計画手法に関する研究

Research on planning method of improvement in the quality of urban space through road reconstruction and street management

(研究期間 平成 26～28 年度)

防災・メンテナンス基盤研究センター  
Research Center for  
Land and Construction Management  
緑化生態研究室  
Landscape and Ecology Division

室長  
Head  
研究官  
Researcher

栗原 正夫  
Masao KURIHARA  
西村 亮彦  
Akihiko NISHIMURA

This study aims to figure out planning method of road reconstruction and street management which is effective for area development and improvement in landscape. In the second year, the authors collect information on 100 projects, which are classified into 10 groups according to their strategies. In order to establish practical criteria to evaluate the effect of road reconstruction and street management, the authors also carry out analysis on 30 case studies. According to its results, the authors propose a set of evaluation criteria which correspond to different types of project strategies.

## 【研究目的及び経緯】

近年、一体的な景観形成や地域振興の観点から、沿道の施設や公共交通機関等と連携した、公共空間としての道路の機能向上が求められている。こうした中、空間の再配分や沿道の修景を伴う道路の再整備が進められるとともに、道路空間を利用した多様なサービス、地域活動が全国各地で展開してきたが、その事業スキームについては十分な検証がなされていない。

本研究は、道路と他施設、市街地と郊外等を横断する複数事業の連携や、地域活動の効果的な活用等を通じて、地域づくりや景観形成を拡充できる、道路空間の再編・改築手法を提案することを目的とする。全国から道路空間の再編・改築事例を収集し、事業の組織体制、補助金・制度の活用、デザイン上の工夫、整備後の維持管理・運用方策等を明らかにした上で、各事業の計画手法と効果を検証する。

## 【研究の内容】

平成 27 年度は、全国における道路空間の再編・改築事例を 20 件収集し、各事業の経緯、実施体制、整備内容、関連事業、事業効果等を整理した。

本年度収集した 20 事例は、昨年度収集した 80 事例とともに、再編・利用の手法と目的の組み合わせに基づく類型化を行った上で、道路空間再編・利用の全体的な傾向と今後の課題を明らかにした。

また、上記 100 事例の中から道路を核とした地域づくりの事例を 30 件選出し、事業・主体・施設の連携手法と地域づくり上の効果を体系的に整理した。

## 【研究の成果】

### 1. 100 事例の収集・整理

近年における道路空間再編・利用の動向を把握するとともに、今後の参考となるアイデアやノウハウを抽出するべく、2000 年以降に供用した事業を中心に、汎用性・新規性の高い道路空間再編・利用の取り組みを選定し、平成 26 年度は 80 事例、平成 27 年度は 20 事例を対象に、情報収集を行った。

収集した 100 事例について、目的と手法の組み合わせに基づく類型化を行い、地域づくりの課題と再編・利用手法の対応関係に基づく 10 類型を抽出した。



図-1 道路空間再編・利用事例の 10 類型

## 2. 再編・利用がもたらす地域づくり上の効果

道路空間再編・利用事例と地域づくりの関係を整理するため、100事例の横断的なレビューに基づき、道路空間再編・利用を通じて解決を図った地域づくり上の課題を18項目に整理した。各課題の相関関係を分析した結果、①都市基盤の改善、②活動・交流の振興、③暮らしやすさ・サービスの向上、④アイデンティティの形成の4つの課題解決の方向性を抽出した。

次に、道路空間の再編・利用が生み出す地域づくり上の効果を整理するにあたり、上記18課題の解決を目的とした代表的事例を各課題につき1~3件、計30件選定した。選定された各事例の事業評価に適用される評価指標を抽出した上で、先の地域づくりの方向性との対応関係を整理した。

### ① 都市基盤の改善

都市基盤の改善を志向する取り組みでは、その効果は交通、都市環境、防災・減災に係るものに大別された。主な評価指標としては、車両走行速度や渋滞量、交通事故件数、地価、地域イメージ、防災性能、防災・減災活動実施回数などが抽出された。



写真-1 旅行速度が約2倍へ増加（創生川通）

### ② 活動・交流の振興

活動・交流の振興を志向する取り組みでは、その効果は商業環境や都市の魅力・快適性に係るものがメインとなり、来訪者数、イベントの開催頻度・種類、歩行者回遊性等の評価指標が抽出された。



写真-2 小売販売額が約3倍へ増加（丸亀町商店街）

### ③ 暮らしやすさ・サービスの向上

暮らしやすさ・サービスの向上を志向する取り組みでは、その効果は生活環境や公共交通に係るものがメインとなり、居住人口や公共サービス利用者数といった基本的な指標に加え、市民健康度、就労率、収益のまちづくりへの還元率など、新しい地域づくりの課題に対応したユニークな評価指標が見られた。



写真-3 利用者が35%増加（鹿島鉄道跡バス専用道）

### ④ アイデンティティの形成

アイデンティティの形成を志向する取り組みでは、その主な効果は住民意識や市民活動に係るものとなった。歩行者中心の街路整備に係る基本的な指標に加え、沿道建築物の修景件数、市民活動の頻度・種類、活動団体数等、住民意識の変化が生み出す効果を捉えるための評価指標が抽出された。



写真-4 沿道家屋の修景を促進（喜多方ふれあい通り）

#### [成果の活用]

収集した100事例について、ポイントとなる事項を示しながら、平面・断面構成、事業の経緯、実施・検討の体制、デザイン上の工夫、関連事業の内容等をまとめた事例集を作成し、道路行政関係者やコンサル等から広く参照される資料として、国総研HPで公開することを予定している。

また、事例集とリンクする形で、道路空間再編・利用の事業化手法や、道路空間を核とした効果的な地域づくりを実践する上での留意点等を説明した手引きを取りまとめる予定である。